



## タンザニア

## BOP層実態調査レポート

- 調査実施日: 2012年9月
- 調査場所: ダルエスサラーム

\* タンザニアシリング(Tsh)換算レート 100Tsh=5円(2012年9月)

## 陸上

タンザニア国内における陸海の物流はSMATRA(Surface and Marine Transport Regulatory Authority)が管理し、法令の整備や事業許可の認可を行っている。陸上の物流はトレーラー・トラックと鉄道に分かれるが、鉄道は民間会社



によって運営されているものはない。料金に関しては、現在、多くの会社が物流事業に参入しているため市場原理がうまく機能し、価格帯に問題は見られない。よってSMATRAは全く干渉していない状況である。また、価格は運ぶ商品の重さや形状、片道か往復か、トラックの性能の違いによる燃費の違いなど、様々な要因が関わってくるため、価格に関して基準を定めることによる弊害を避けるためにも特別なことがない限りは市場原理に委ねている。

## 鉄道輸送

鉄道は、ダルエスサラームからムベヤを通りザンビアのニューカピリンポシまで行っているTAZARA(Tanzania Zambia Railway Authority)とダルエスサラームからドドマを通りキゴマ(支線としてムワンザとムパンダ)まで行っているTRL(Tanzania Railways Limited)の2社がある。運行ダイヤは、TAZARAの場合、乗客用週2本に対して貨物列車は毎日出ている。TRLは、乗客用は週2本の運行だが、貨物は集まってからの随時運行となる。

2社とも、そのまま運ぶ車両と荷物を詰めていくカーゴタイプがある。コンテナの場合、港で船から降ろされたコンテナをそのまま鉄道の車両に乗せることができる。カーゴの場合はカーゴ専用の駅に荷物を持って行き、そこで積み込む。2社のダルエスサラームから各都市までの輸送費は次の図の通りである。





#### 輸送費(ダルエスサラーム～各都市)

TAZARA	～ムベヤ	～ザンビア国内		
コンテナ(40ft)利用 ※(コンテナを港まで戻す場合は+\$2,000)	\$2,180 ※国内は\$2.12/Km	\$4,000 ※定額		
カーゴ利用	\$62/トン	\$134/トン		
荷物単品	\$270/トン	\$375/トン		
TRL	～ダボラ	～キゴマ	～ムワンザ	～ムパンダ
コンテナ(40ft)利用 ※(コンテナ返却費用は無料)	Tsh356万	Tsh456万	Tsh458万	Tsh435万
カーゴ利用	コンテナ利用と同料金			
荷物単品	Tsh22万		Tsh30万	

TAZARAの職員いわく、値段は悪くはないが鉄道輸送を扱うエージェントがあまりにも少なく、お客を繋ぐ人がいないためほとんど知られていない。国境をまたぐとなるとトレーラーは色々な障害があるのに対して、鉄道はほとんどスルーだという。道中の事故や取り締まりなどを考慮に入れるとトレーラーより使い勝手がいいのではないかとのこと。



TAZARA コンテナ貨物



TAZARA カーゴ

#### トラック輸送

トラックやトレーラーを所有している陸送会社は無数にある。ほとんどが個人で一台のトラックかトレーラーを所有している個人オーナーで、値段はすべて条件次第でまちまちである。ダルエスサラームに数か所トラック・トレーラーが集まる場所がありそこで個人的に話し値段を決める。

ダルエスから地方に運ぶ荷物はいろいろあるが、地方からダルエスに運ぶ荷物は限られている。たとえばタンザニアの穀倉地帯であるムベヤなどは比較的安い値段で運ぶことができる。というのも帰りに穀物を運んで帰ることができるので往復で仕事ができ割安になる。逆にアルーシャなど帰りに運んでくる荷物が無い場所への陸送は高くつく。





4トントラック(改造してあり10トンまで運ぶ)・40ftコンテナ輸送のトレーラーのダルエスサラームから各都市への輸送料の相場は次の通りである。

#### 各都市への輸送料の相場(4トントラック)

ムワトラ	Tsh150万	アルーシャ	Tsh150万
ムベヤ	Tsh110万	ムワンザ	Tsh250万

#### 各都市への40ftコンテナ輸送料の相場(トレーラー)

ムワトラ	Tsh250万	アルーシャ	Tsh400万	キゴマ	Tsh670万
ムベヤ	Tsh280万	ムワンザ	Tsh400万		

ダルエスサラーム港は内陸国への貨物の荷揚げ港でもあり、通過貨物も多い。40ftコンテナはUS\$建てで料金は決まっています、港からキガリ(ルワンダ)、ブジュンブラ(ブルンジ)、ルサカ(ザンビア)、リロングウェ(マラウイ)へは\$4,500、ルブンバシ(コンゴ)が\$7,500といわれる。

#### 鉄道・道路概略図



#### 海上

ダルエスサラームからザンジバル島へ貨物船を運航している会社が2社ある。ダルエスからザンジバル島のウングジャまでとウングジャ経由でペンバまで行っている。日曜を除いて毎日運航している。その日の夕方までに港へ持っていけば、夜中に荷物の積み下ろしを行うので次の日の朝にはザンジバルの港から出すことができる。

料金は40ftコンテナでTsh 300万かかり、コンテナ以外はTsh 4万/tonもしくはm<sup>3</sup>で、その計算式で値段の高いほうを採用される。ペンバ島まではすべて値段が2倍になる。

ムワトラ、タンガの両港への定期貨物便は現在はない。



#### 航空

空路で運ばれてきた荷物はSWISSPORT TANZANIA Ltd (旧Dar es Salaam Airports Handling Company Ltd) が保管管理している。荷物到着後3日間は無料だがそれ以降は追加料金がかかる。手続き自体は特に難しいことはないがエージェン次第では通関に多少の時間がかかる。通関での遅延についてクレームを挙げている企業もあるが船に比べればかなりスムーズである。

国内の空の輸送はプレジジョンとfly540が行っていてダルエスからムワンザ、アルーシャ、ムトワラなど地方の中核都市に向けて毎日運航している。値段はどこでもプレジジョンはTsh 5,000/kgでfly540はTsh 3,000/kgとなっている。

#### 特定商品の調達ルート 自動車部品の例

タンザニアで最も流通しているスペアパーツは、日本の解体屋から出てくる中古のスペアパーツで、中国の新品のスペアパーツよりも高い値段で取引されている。タンザニア人のバイヤーが直接日本に買い付けに行き、コンテナにスペアパーツを積みタンザニアへ持ってくる。もしくは、パキスタン人や中東のアラブ人が日本からドライに輸入して、それをタンザニア人のバイヤーがドライへ買い付けに行く。

ダルエス港に着いたコンテナは通関をして税務署の検査を受け保税倉庫へと移動される。そこへトレーラーがコンテナを取りに行き荷物を降ろす場所まで運ぶ。この際、港近くの倉庫でいったん荷物をすべてコンテナから出しトラックに詰め替えて輸送する方法と、コンテナをそのままトレーラーで地方まで運ぶ方法がある。港近くの貸倉庫は大体100坪程度で\$2,000弱/月かかる。降ろされたスペアパーツはトラックでそれぞれの店まで運ばれそこで販売され、個人や修理工場が買いに来る。



## JETRO

【免責事項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用ください。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロ及び執筆者は一切の責任を負いかねますので、ご了承ください。